

(様式1)

平成23年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

整理番号 108	提案機関名 神奈川県内水面養殖業者協議会
要望問題名 アユの冷水病のワクチンの実用化	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 県内のアユ養殖場では、食用、友釣りのオトリ用及び河川放流用にアユを生産していますが、近年、全国的にアユ冷水病が発生し、その対策に苦慮しています。本病は投薬による完治が難しく、さらに、あごの欠損や体表の穴あきなどの症状により商品価値が著しく低下します。このため、ワクチンによる予防が重要と考えます。ワクチンの使用は、抗生物質等の使用低減に繋がり、薬剤耐性菌の出現や抗生物質等の魚体への残留リスクを低下させることが期待され、食の安全確保にも有効と考えております。これらのことから、アユ冷水病ワクチンの早期実用化を要望します	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	水産技術センター	担当部所	内水面試験場
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 魚病対策技術・ワクチン推進研究		
対応の内容等	アユ冷水病ワクチンは、平成17年度から独立行政法人水産研究センター養殖研所、滋賀県、広島県、本県及びワクチンメーカーが協力して開発に取り組み、浸漬ワクチンについて効果の高い菌株及び使用濃度が判明し、平成20年度から浸漬ワクチンの実用化研究を継続しております。現在、ワクチン原液の2倍希釈液の使用で安定した効果が認められていますが、コスト削減の研究も進めています。今後、県下養殖場における臨床試験も含めこれらの試験研究を推進し、アユ冷水病ワクチンの早期実用化に取り組みます。		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			